

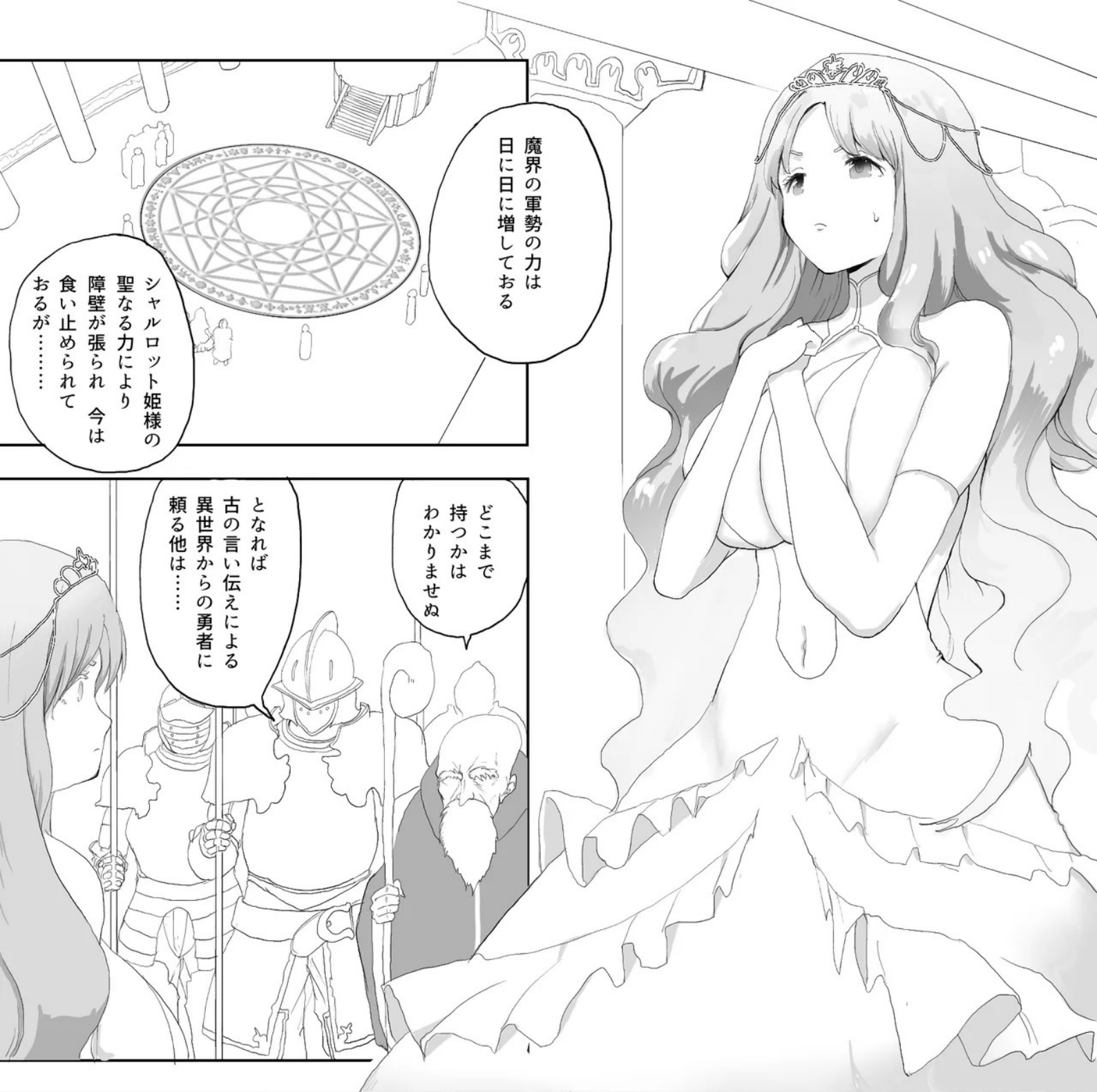


フル
ゴッ...

...
それでは
...

異世界からの
勇者召喚の儀を
執り行う



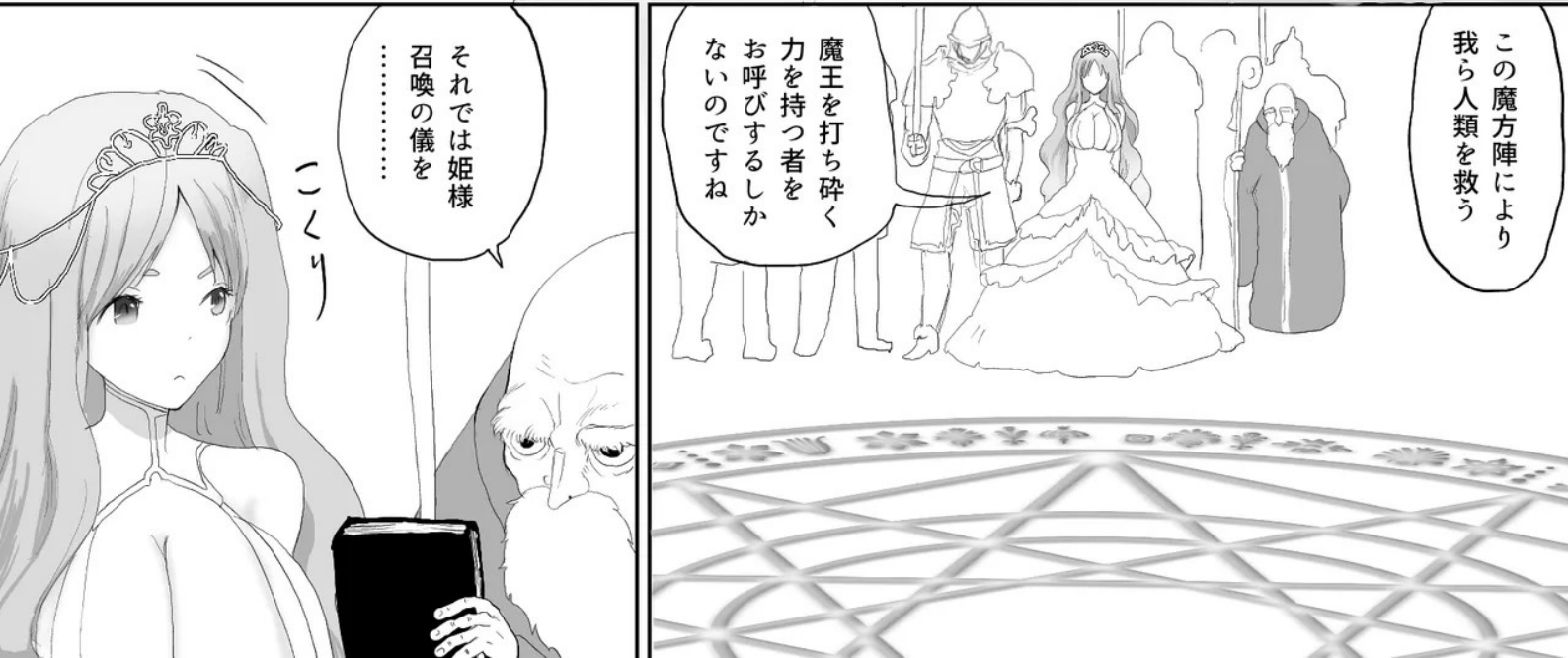


魔界の軍勢の力は
日に日に増してある

シャルロット姫様の
聖なる力により
障壁が張られ今は
食い止められて
おるが……

どこまで
持つかは
わかりませぬ

となれば
古の言い伝えによる
異世界からの勇者に
頼る他は……



この魔方阵により
我ら人類を救う

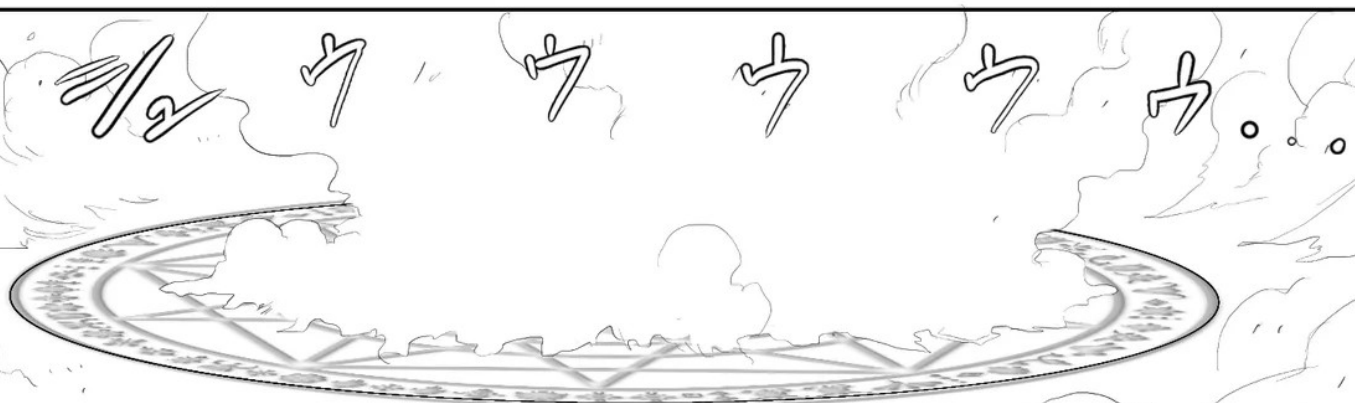
魔王を打ち砕く
力を持つ者をお
呼びするしか
ないのですね

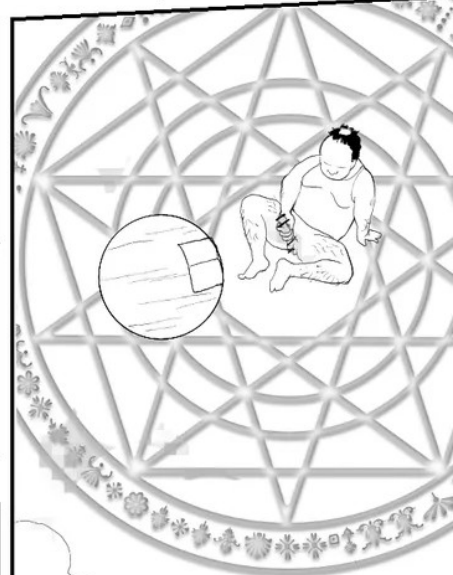
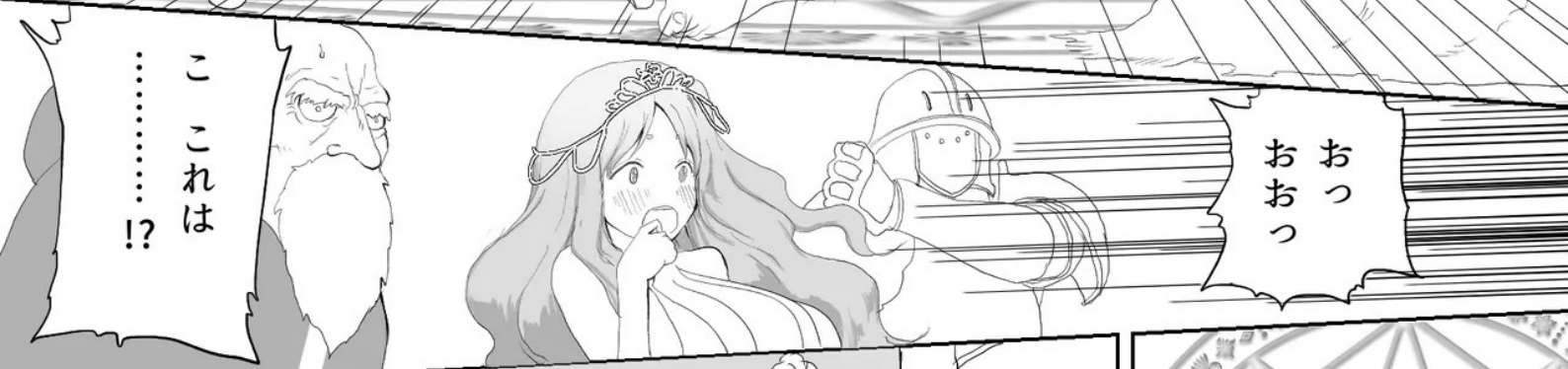
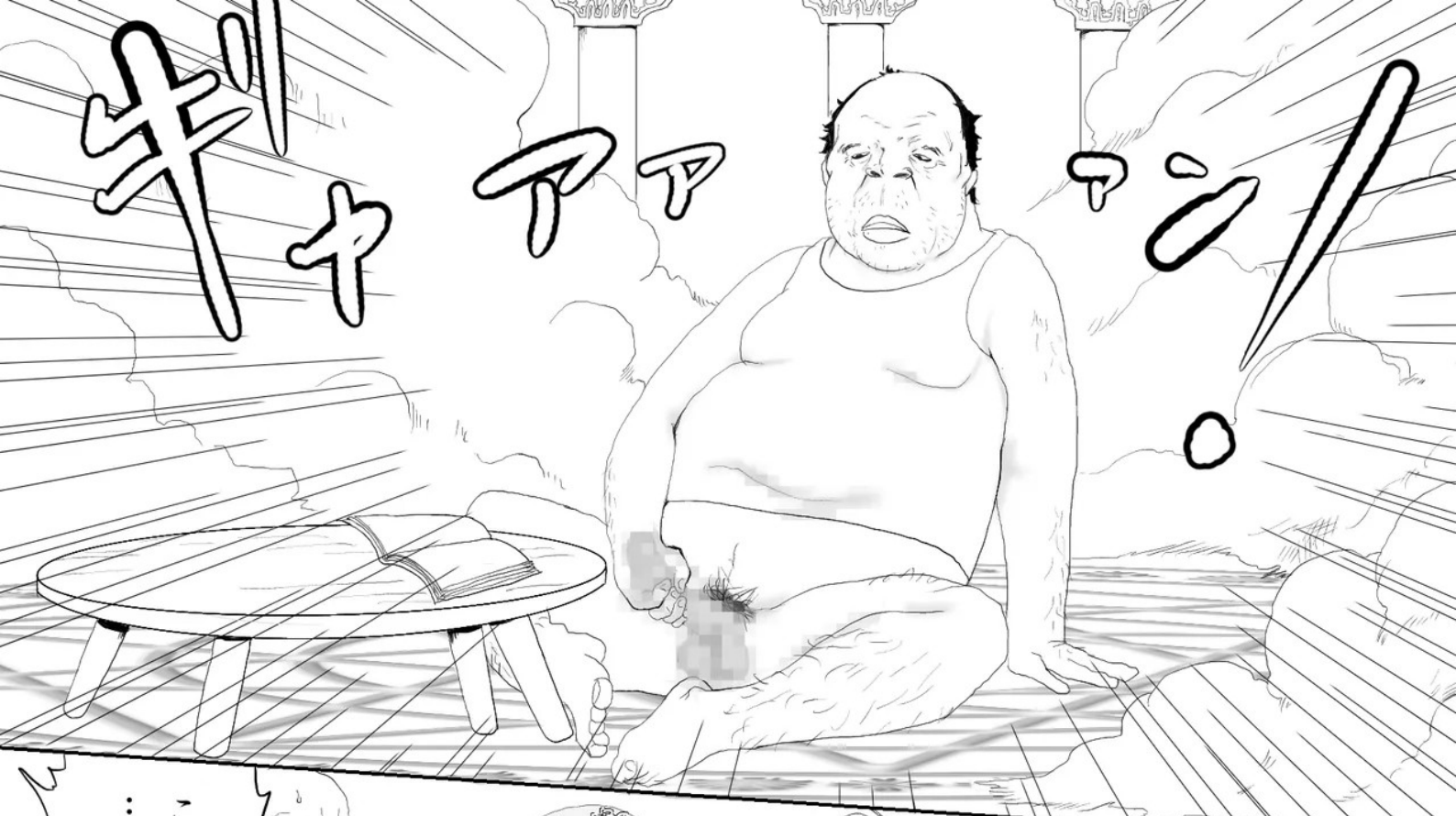
それでは姫様
召喚の儀を
……

こくり

選ばれし
異界の勇者よ

我が声に応え
いでよ!!







今我が国は
魔王率いる魔族の
軍勢に脅かされて
おります

貴方様をお呼びだて
したのも
どうか勇者である

貴方様のお力で
我が国をすくって
いただきたいがため！

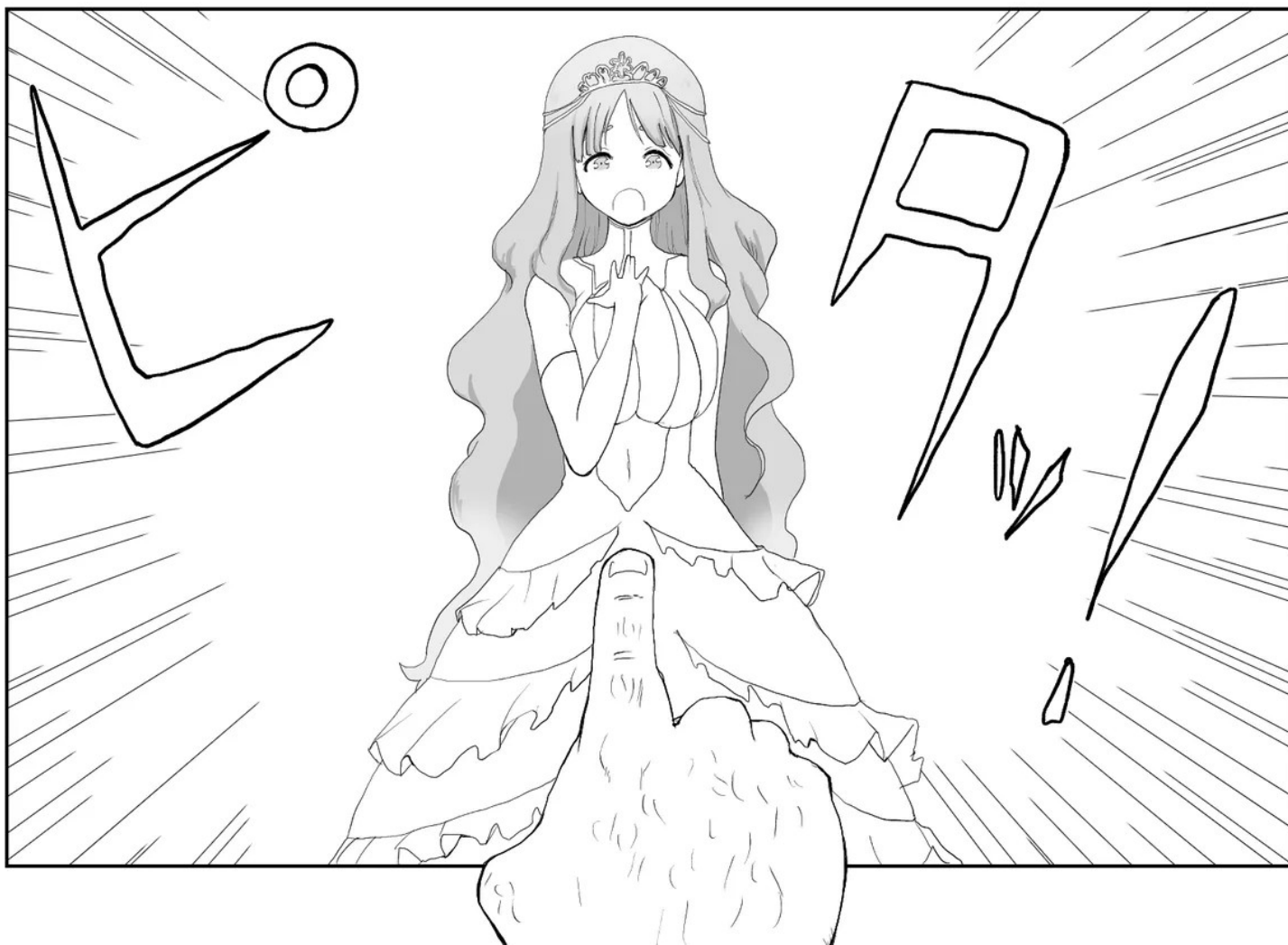


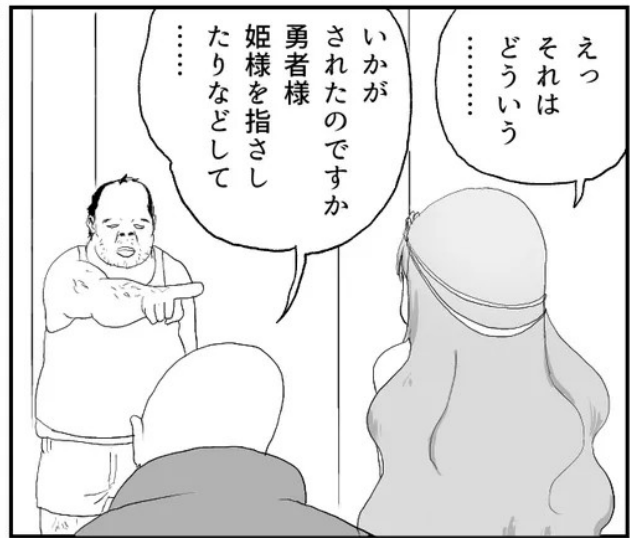
もちろん
タダでは
言いません

勇者様の
お望みのものを
ご用意させて
いただきます！
……？

何を

望みます





ししばらく
そこで落ち
つかれるが
よろしい
かと

まあ
突然 異界へきたの
ですから

取り乱すのも
仕方
ありません

のちほど
またお話
いたしましょう…

姫様
すぐにお着替えを
お持ちします

ありがとうございます
ございます



老師…
あの者 本当に
伝説の勇者なの
でしょうか？
私にはとても…

そうじゃとも

いや

そうであつて
もらわねば
困るわ……！



ふう……

びっくりして
しまいましたわ
……

ギシ…



勇者様、か……
何か素敵な殿方が
来てくれやしないかと
ぼんやりと思っていました

わかったよ
お姫様
魔王は
僕に
まかせて！

まったく
世話をやける
お姫さんだぜ！

いえ
そのような
ことを言っ
ては
勇者様に
失礼ですわね

まさか
あのような
……

ましてそのような
甘い夢を
見られるほど
子供でもありませんし

そのような
余裕もない

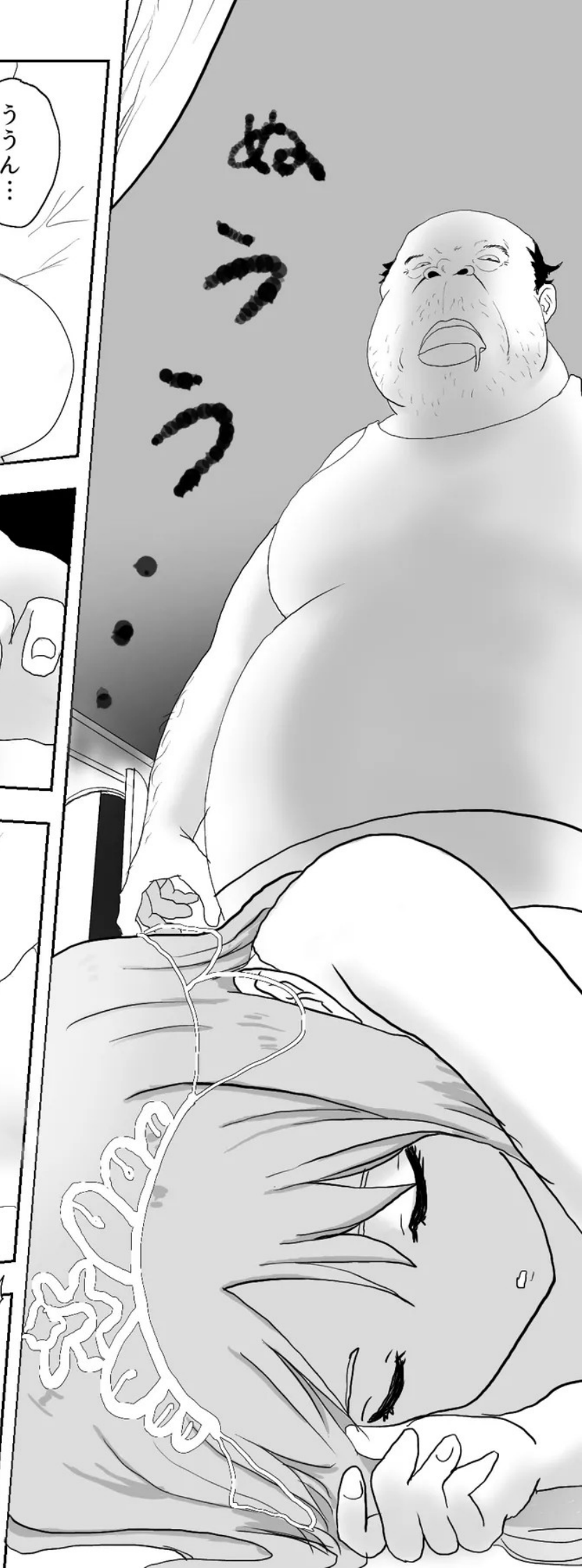
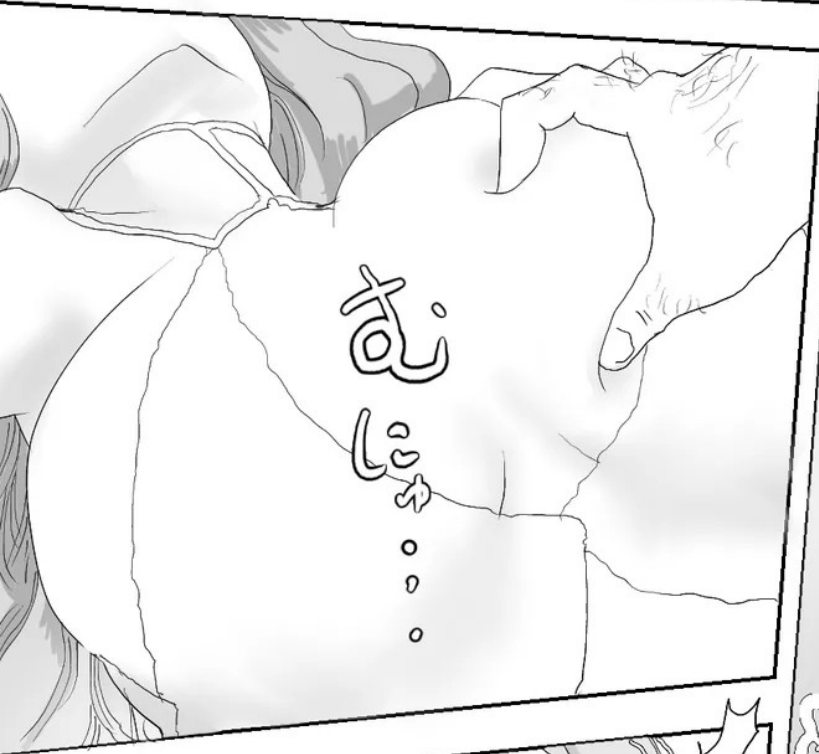
一国の姫として
魔王の脅威の前に
夢を見ている場合では
ないのです……

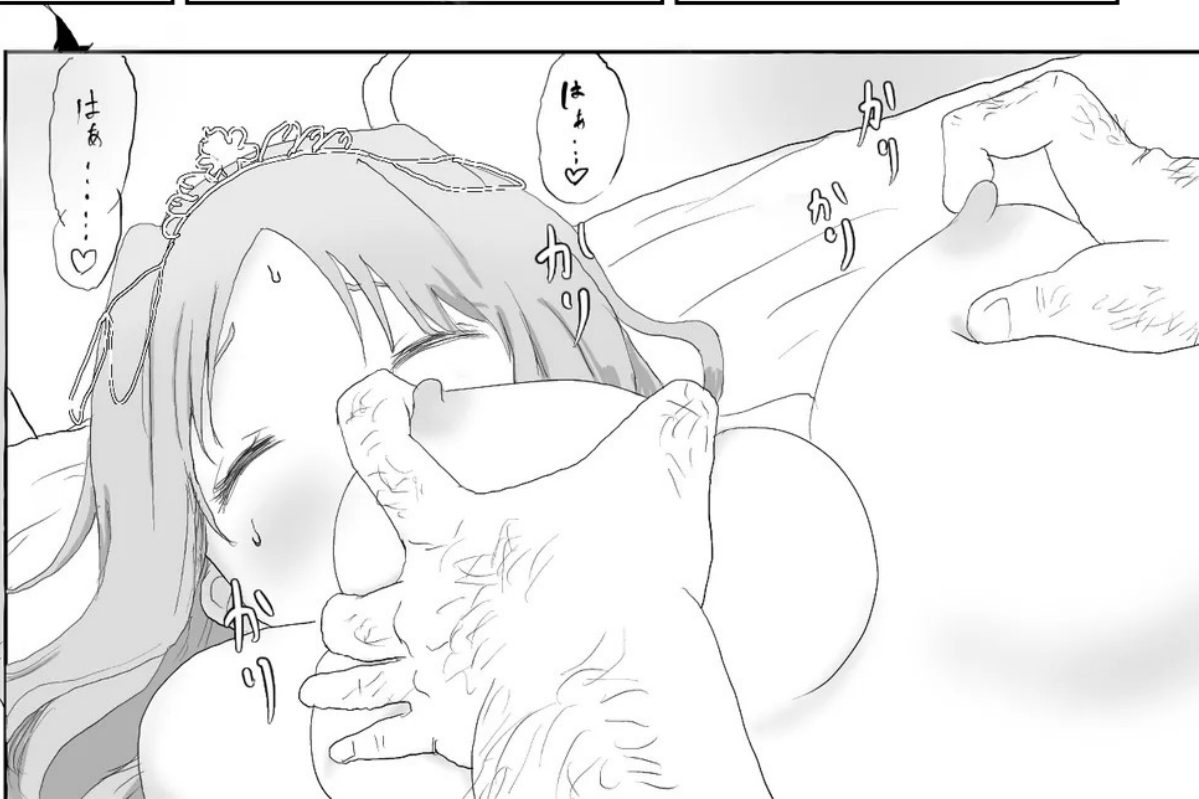
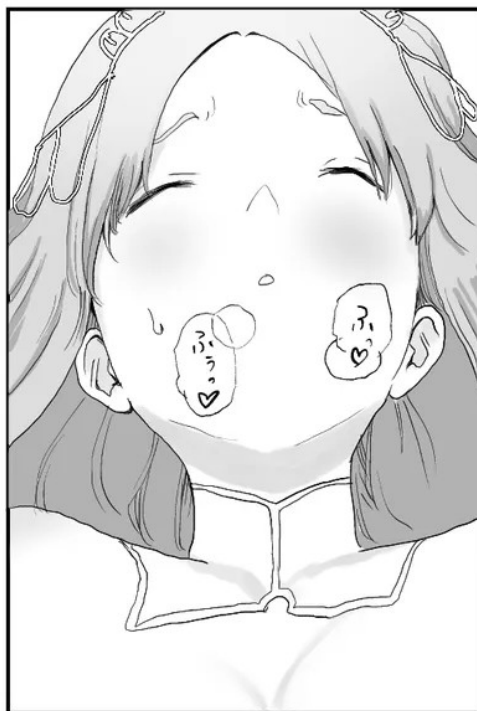
う……
それにしても
何だか眠い
ですわね……

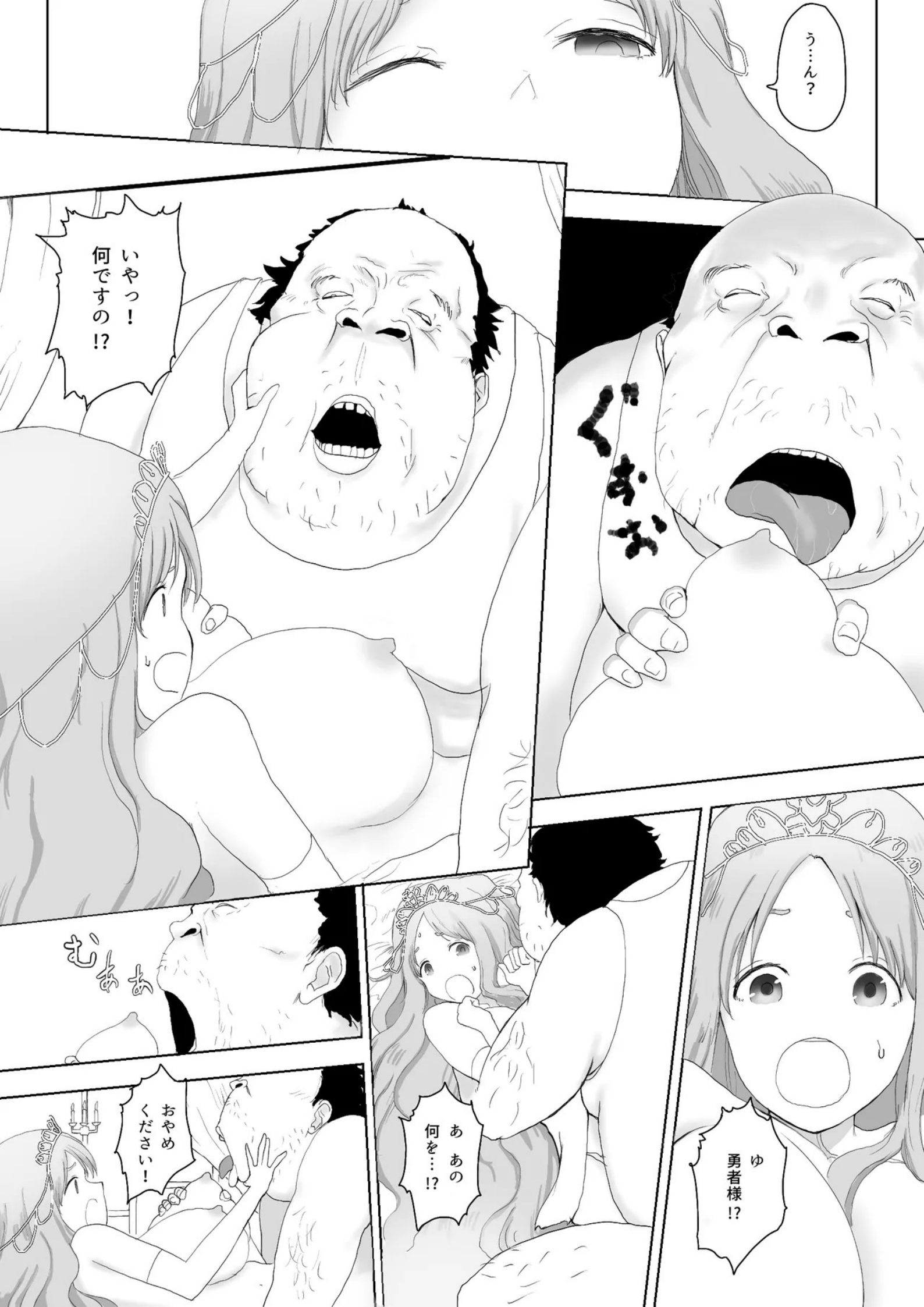
着替えを
すませたら
勇者様と
魔王討伐の
協議をしなければ
……
起きていないと……

おき……て……
……
……
……

す……







う...ん?

いやっ!
何ですの!?

ぐ...あ...

むああ

おやめ
ください!

ああの
何を...!?

ゆ
勇者様!?

は
離
し
て
……



は
む
♡



ち
ゃ
♡

ひ
っ
……
!?

ち
ゃ
♡
ち
ゃ
♡
は
♡



れ
ろ
れ
ろ
♡



ク
ッ
♡

ん
ん
♡



な
な
ぜ
こ
ん
な
……
!!



誰
か
……
っ!

ホァア〜...

オーツホツホツ

シャルロット姫
いい格好ね！

……!?
何者っ!?

お初にお目にかかるわね

私は魔王
グランリーゼよ！

ええっ!?

どうかしら
シャルロット姫？

私が異界から
呼んであげた
『勇者』は！

……!?
異界から呼んだ

……
何を言って





教えてあげるわ
お前たち人間が
異界から勇者を
呼ぼうとしてる
ことは知っていた

だから私は
お前の召喚魔法に
干渉し
本来 呼ぶべきだった
勇者を脇に追いやり
違う者を呼んだのよ!!

シャルロット
お前の
結界魔法のため
我が魔族は
大軍を人間界に
送れない

けど 結界は
お前の処女性に
よって力を
発揮する

というわけで
お前の処女を
奪える者を
呼んだってわけ

なっ……
……!!?

その醜い男は
勇者でも何でもない
前の世界で性犯罪を
繰り返してきた
ただのロクデナシよ

お前の純潔を
汚し人間界を
破壊するのに

うってつけの
男よ!!

なんかいきなり
牢にブチ込まれ
てたのは
計算外だったけど
まあ我が魔法で
出してやったし
他の人間どもは
眠らせたわ

さあ
異世界からの
男よ

姫の純潔を奪い
結界を消して
しまいなさい！

い……

いやっ
離してっ！

ほんとに
お姫様も
期待してるんじや
ないのかア

ん？

何言ってるんだア

乳首こんなに
ピンピンに
シコらせとい
てよォ………





ほおら
ここに
挿れるゾオ

ぐっ....!

はっ!

かっ!

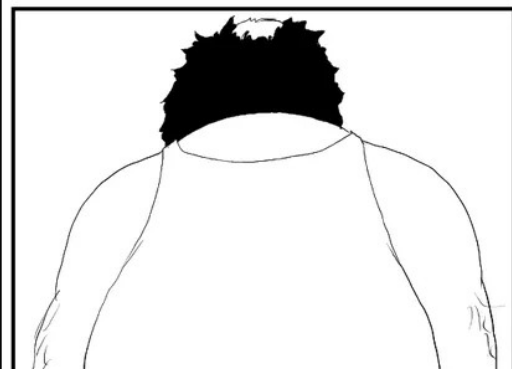
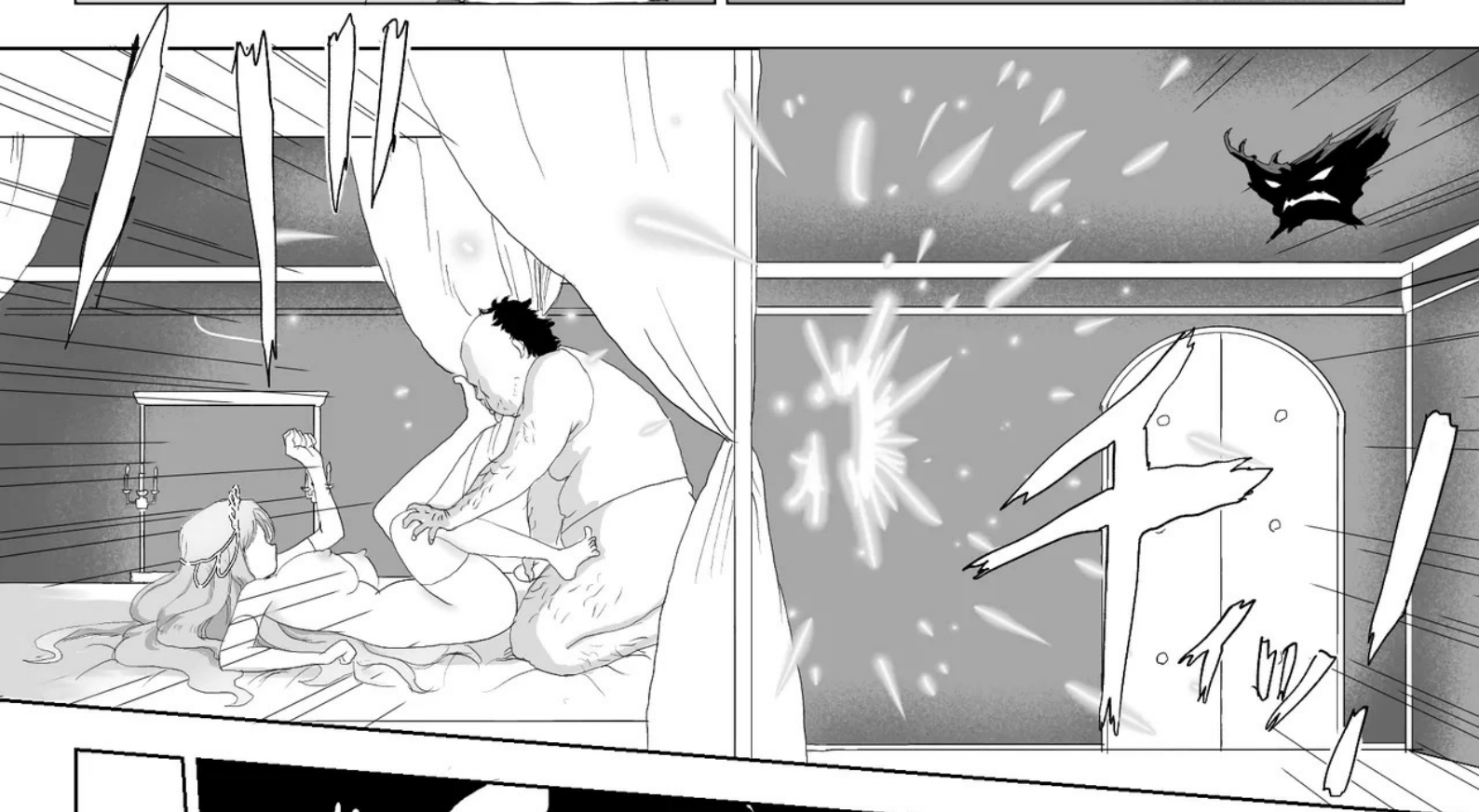
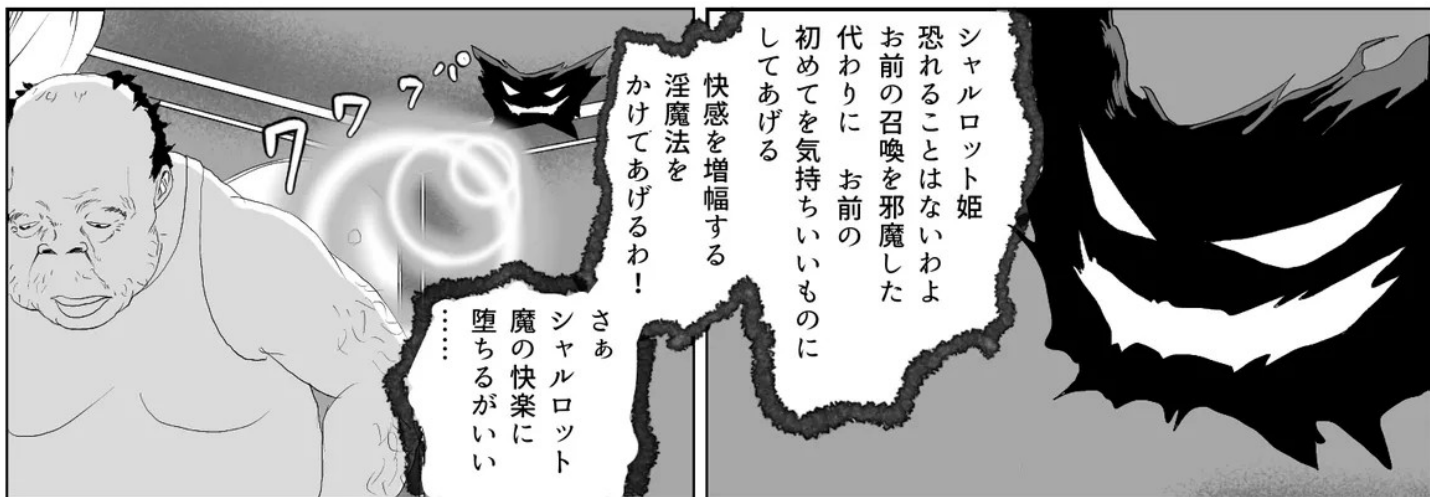
やあつ!

おじさんのオンナに
してやるからなア

お おやめ
ください!

そのような
ことをすれば
結界が.....!

ククク
もうすぐ我らを
止めることは
できなくなる...!



何なの
……!?

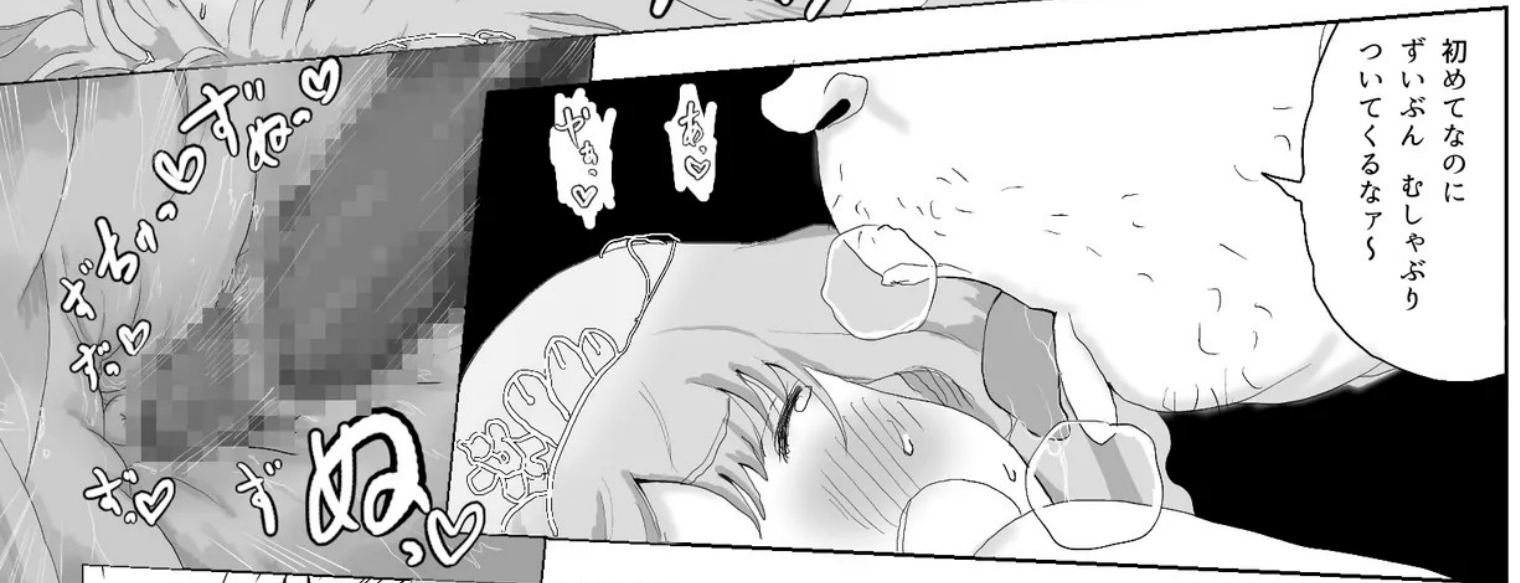
自分には
そんな魔法など
不要だとしても
言いたいのに!?

ほおら
ちんぽ入るゾオ
……

いやっ
やっ
やめて
……!!

いやあっ!!

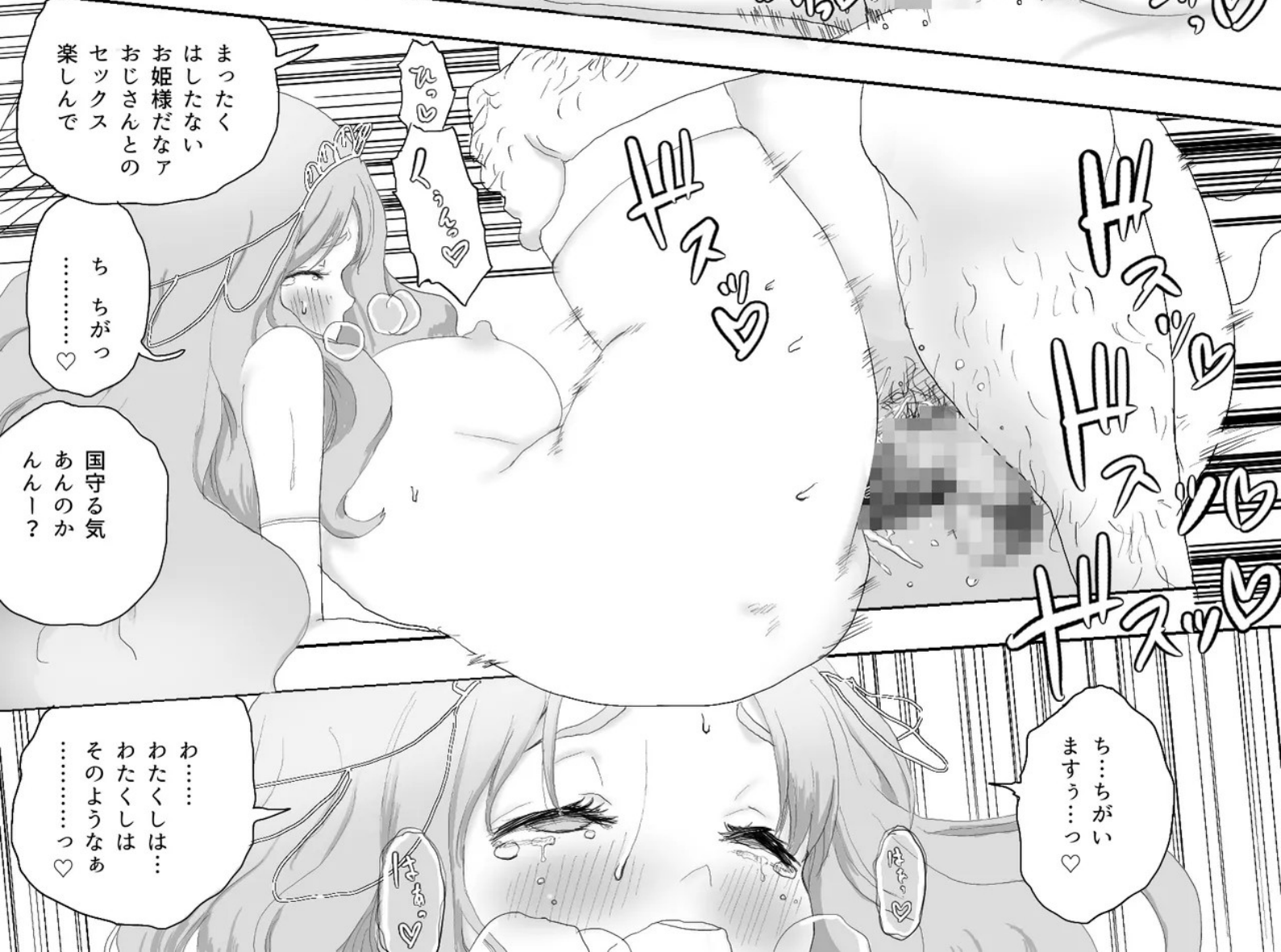






むむ……
ほんとに
感じさせてる
……

いったい
どうやってんのかしら
……
それともそれが
異世界人の力
だとも言うの
……!?



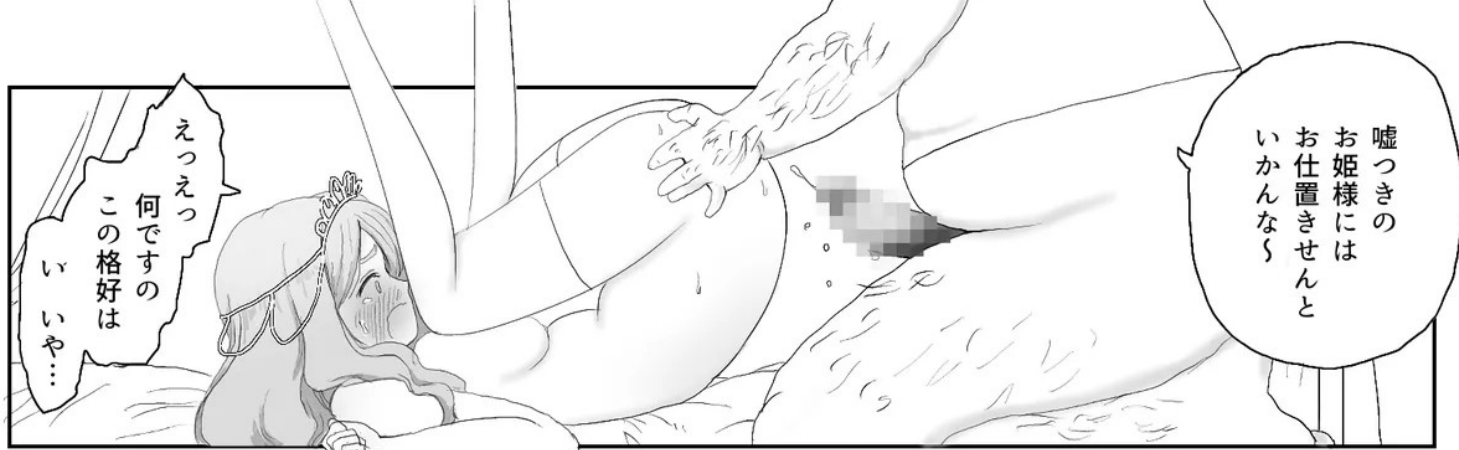
まったく
はしたない
お姫様だなア
おじさんとの
セックス
楽しんで

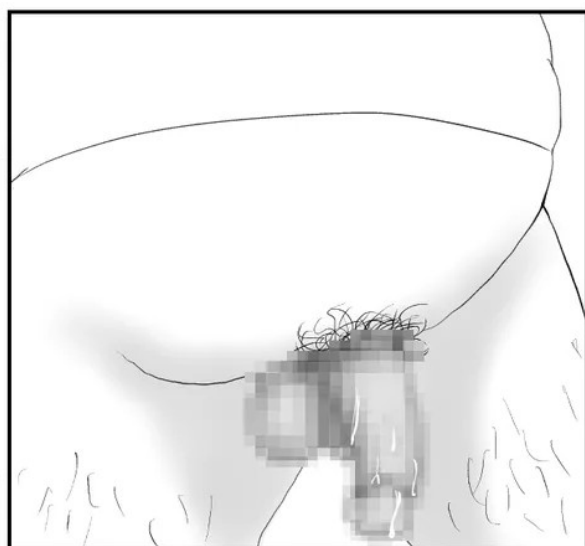
ちちがつ
……

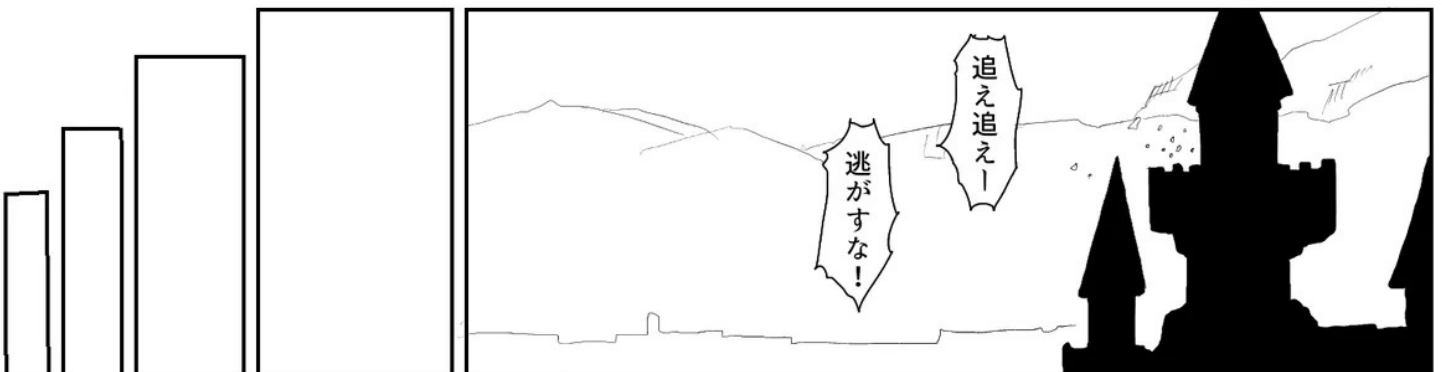
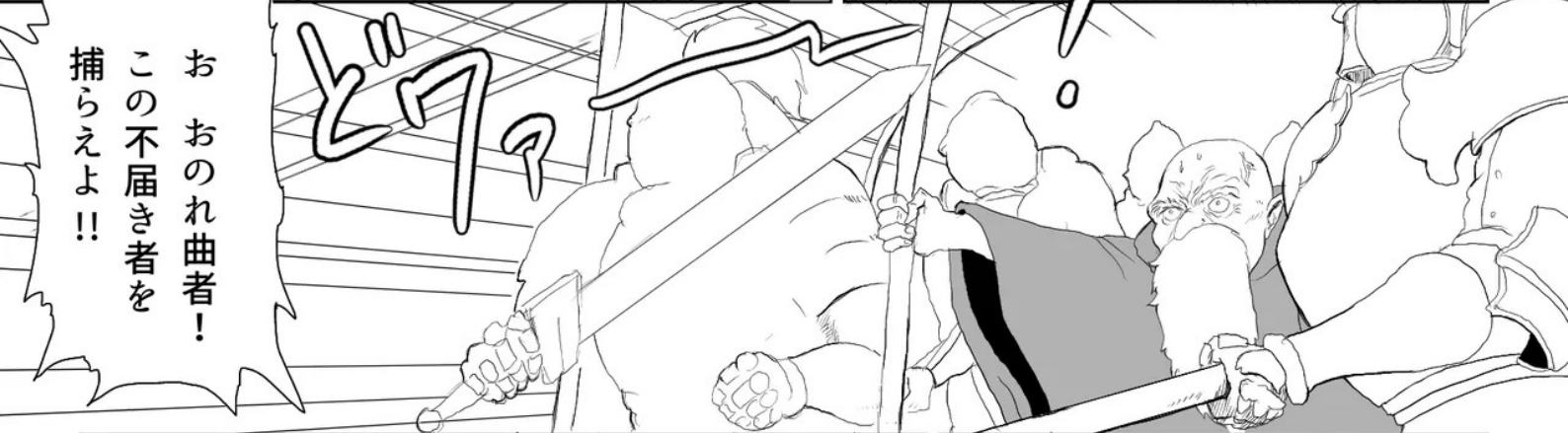
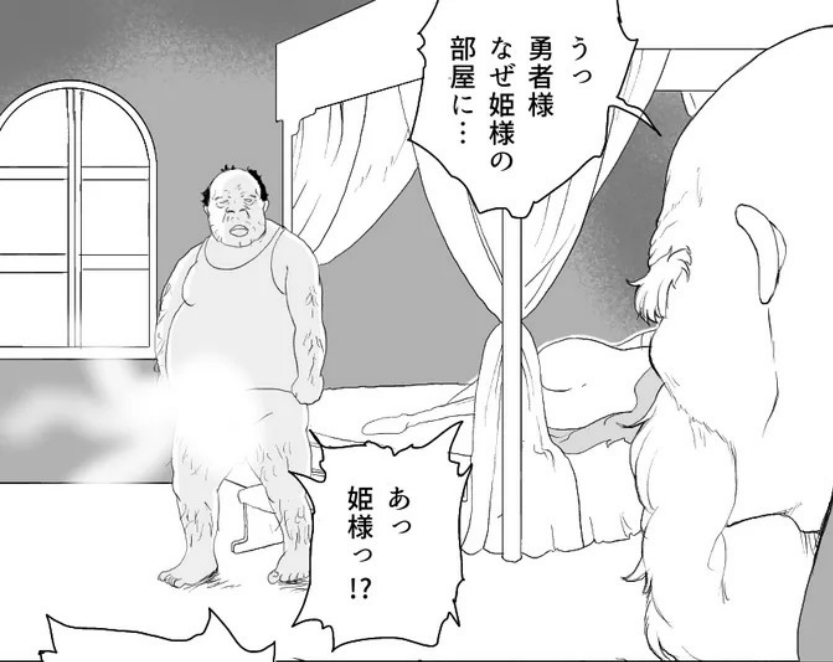
国守る気
あんのか
んー?

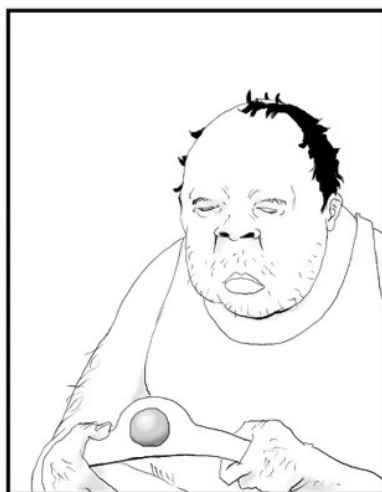
わ……
わたくしは……
わたくしは……
そのようなあ
……っ♡

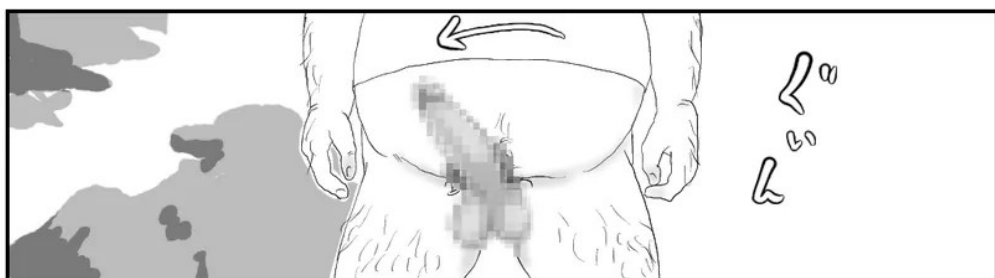
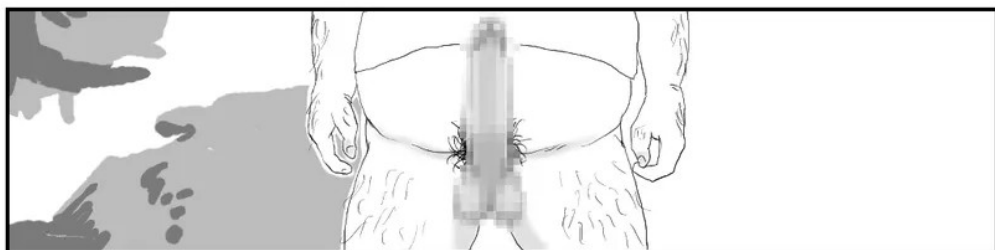
ち……ちがい
ますう……っ♡











こうして おじさんは
魔王討伐の旅へと
出かけたのであった

それは使命感に
よるものか
ただのリビドーの
なせる業か

知る者は誰も
いなかった……

おしまい

